

今年は夏の高気圧がなかなか遠ざからず、この紅葉の時期にはそぐわない暑い日もございましたが、いよいよ今年も報恩講(親鸞聖人ご命日法要)の季節になりました。当院は12月4日(日)に行きます。

さて、その今年の暑い時期の出来事でしたが、道を歩き信号待ちをしておりましたら突然、後方から自転車に乗ったひとりのご婦人(70歳代ぐらい)が話しかけてこられました。「あなた、しあわせなんでしょう?」最初ドキッとして固まってしまいましたが、とっさになにか返さなければと思い「そうでもないですよ。」と答えました。するとそのご婦人は少し不思議そうな表情をされた後話し始めました。「わたし今娘を介護しているの、毎日病院に通っているけど、たまに本当に疲れて全部放り投げたくなるの。この前は我慢できずに娘の前で・・・もうこんないや!と叫んでしまったところで信号が変わりそのご婦人は自転車で挨拶もなく離れていかれました。その後私はやり場のない気持ちと物足りなさを感じた

ことを覚えております。その時感じた物足りなさはなんだったのか?その後考えておきますと「もう一言つけ加えるべきだったなあ」という思いがおこってきました。もう一度会話を振り返ると(ご婦人)「あなたしあわせなんでしょう?」(私)「そうでもないですよ。」…その「そうでもないですよ」のあとに「けど、以前程のむなしさはないですね。」と言えなかったことを少し後悔致しました。

さて、私が人生でむなしいと強く思っていた時期は10年程前35歳ぐらいの時期だったと思います。当時は鍼灸マッサージ院を営んでおり何とか軌道に乗ってはいった時期でしたが開業当初思っていた状況とは随分違うものでした。恥ずかしながら当初は自分を過信し他よりできる治療家だと思いついて、当然店舗拡大もできておりましたが、実際始めてみますと治療能力、経営能力ともそこまで秀でたものではなくごく平凡な鍼灸師であることに気づかされました。しかし心の中では「いつかこの状況は変わるはずだ。すごい治療家になれる

はずだ」と自分を強く信じ込んでいたことが反面強いむなしさを感じることに繋がったのであろうかと振り返ると思います。しかしその強いむなしさがあったからこそ、その後私が浄土真宗を学んでみようと思うご縁になっていったのではないかと最近つくづく思います。当時はむなしいという言葉の意味すらわからない状況でしたが、親鸞聖人がお示し下さる浄土真宗の「真実」の意味をきかせていただく中にむなしいという心の状態がいかなることかはっきりと知らされます。親鸞聖人の真実とは阿弥陀様のみであります。その阿弥陀様とは今ここで私たちをお救い下さっているおはたらきのことです。そのはたらきとは、すべての人々の苦悩に念仏(南無阿弥陀仏)となって寄り添い、いのち終わったとき浄土ですぐさまこの上ない仏にさせていただくはたらきです。本当の「真実」にすべてをまかせることがお念仏(南無阿弥陀仏)でありこのお念仏申す人生が素直に幸せとは言えなくてもむなしくはない、と言える人生に転ぜられてゆきます。合掌